

バスの乗り方教室のバス利用促進効果に関する研究 —小学生を対象として—

交通まちづくり学研究室2020年度修士研究 名川和希

研究の背景

バス利用者数の減少により、民間バス事業者の不採算路線からの撤退、公共交通ネットワークの縮小、運行回数などのサービス水準の低下などが起きている

持続可能な地域公共交通とするためには、多くの課題があり、自治体によって様々な取り組みが行われている

バスを利用するきっかけづくりを目的とした「バスの乗り方教室」が、主に子どもと高齢者を対象と行われている



出典: <https://www.town.motegi.tochigi.jp/motegi/nextpage.php?cd=4099&syurui=2>

小学生を対象としたバスの乗り方教室は、小学生への公共交通の利用促進のひとつである

小学生への公共交通の利用促進とは…
将来の公共交通利用者へと育成することである

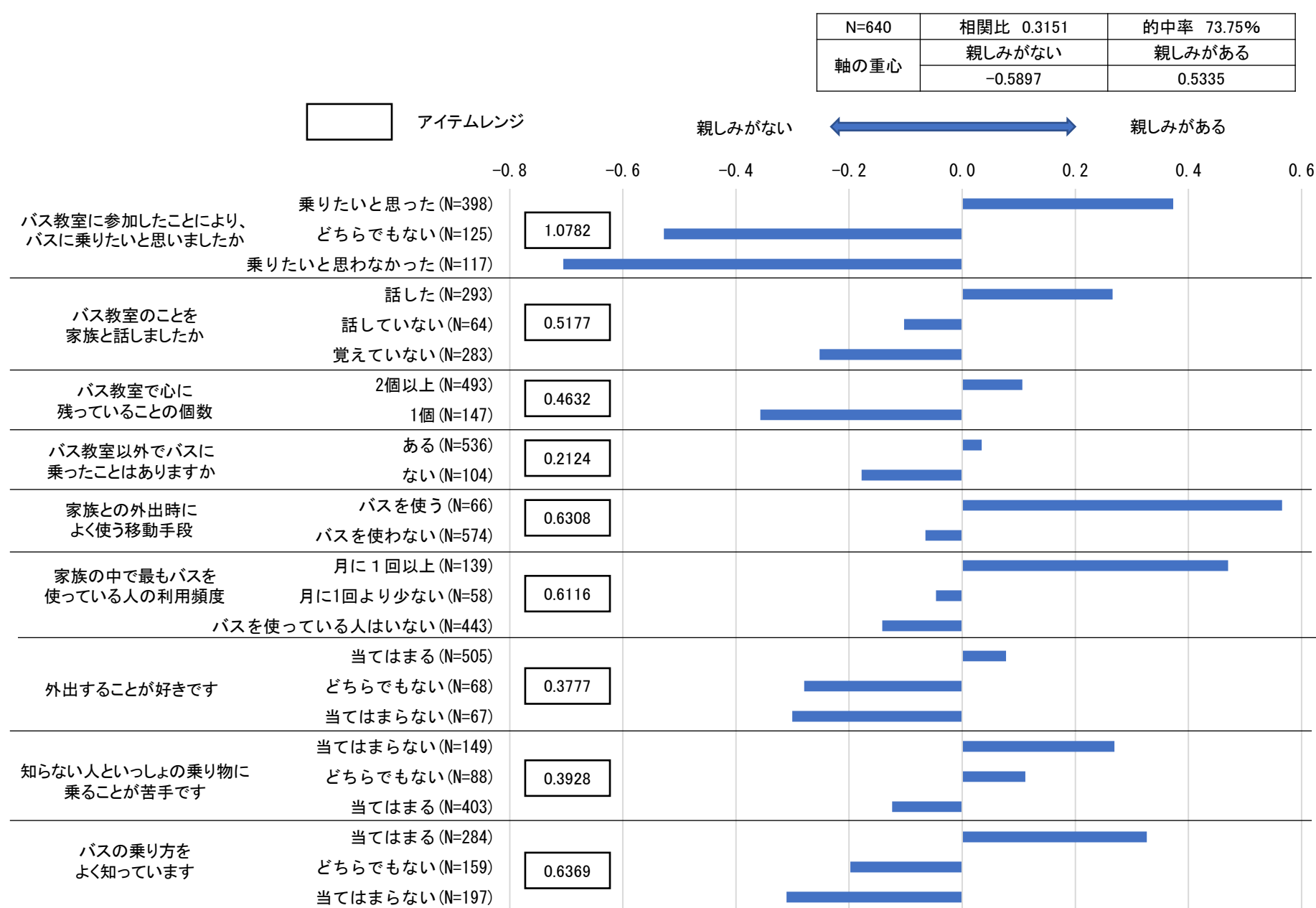
長期的な視点で利用促進について考えると…
小学生への利用促進は重要な利用促進策のひとつであると考えられる

研究の目的

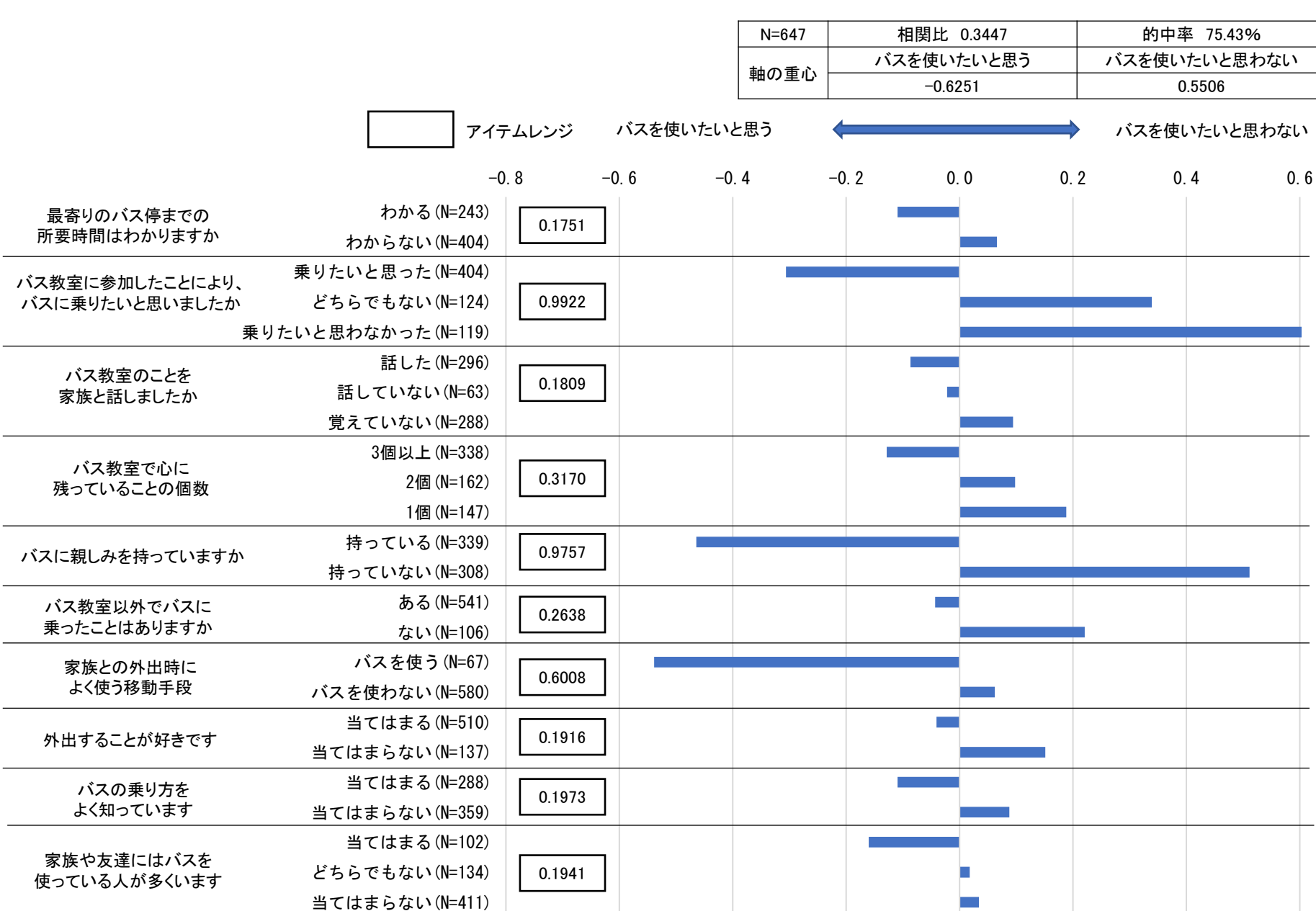
バスの乗り方教室の効果と
小学生のバスの利用意識について明らかにする

分析結果

◆バスへの親しみに関する数量化Ⅱ類モデル



◆バス利用意向に関する数量化Ⅱ類モデル



調査対象とアンケート概要



出典: <https://ndsu-e.ed.jp/kiroku/1084/>

＜調査対象＞
岡山市の小学校を対象としたバスの乗り方教室
(主催: 岡山市都市整備局都市・交通部交通政策課)

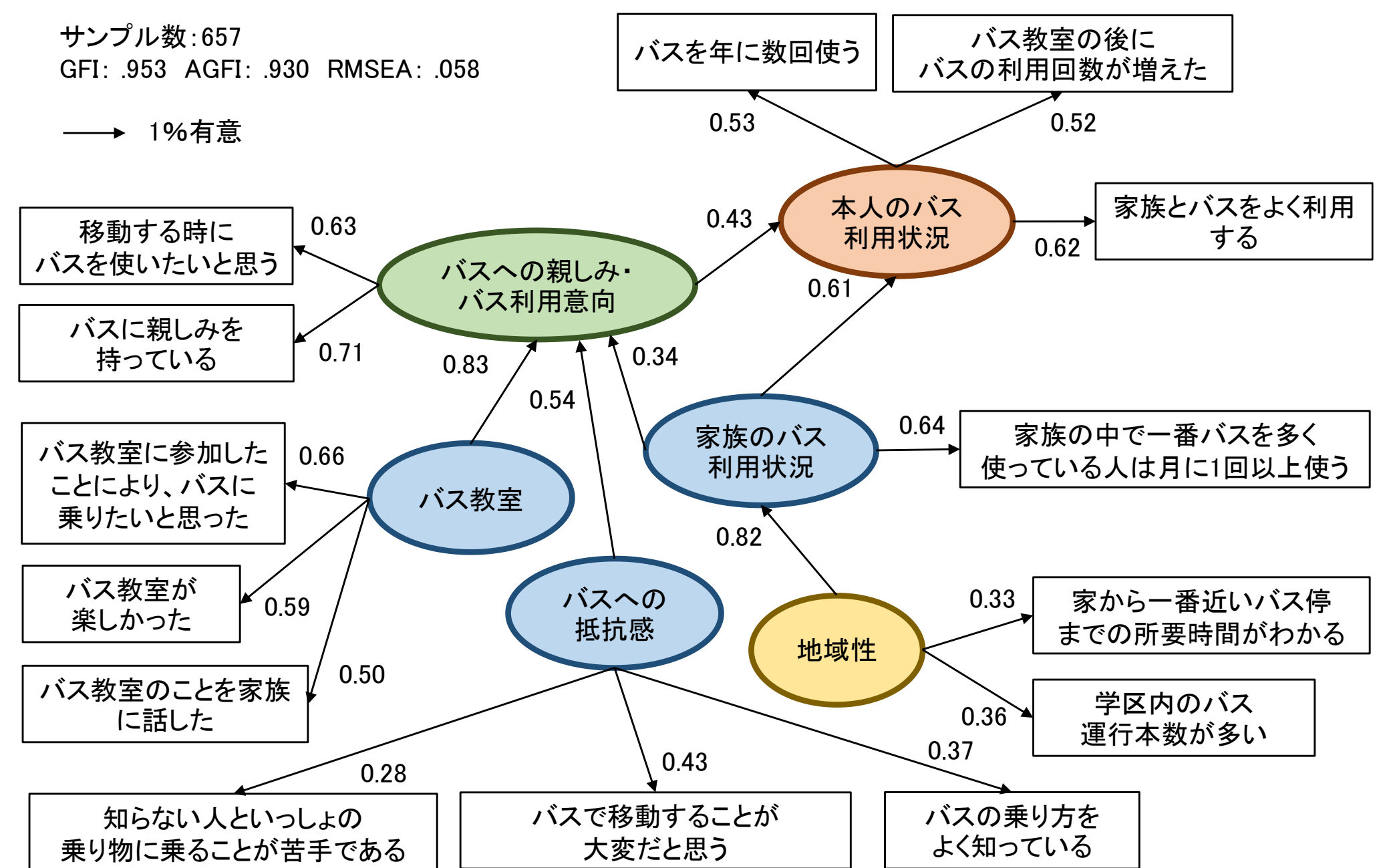
岡山市で行われているバスの乗り方教室の概要

- 対象** 主に小学校低学年
- 目的** 「バスの利用方法」、「交通安全」、「マナー」の3つのテーマについて学び、路線バスへの関心を高め、公共交通の利用促進を図る
- 開催状況** 2013年度からバス教室が毎年10校程度で開催されている
※2020年度は新型コロナウイルスの影響で開催されていない

＜アンケート概要＞

バス教室についてのアンケート		
調査方法	記述式アンケート	
調査時期	2020年12月	
調査対象者	2年生の時にバス教室に参加しており、現時点で4年生、5年生、6年生の児童	
調査対象校	岡山市内の小学校6校を対象	
	4年生を対象	東嶽小学校、庄内小学校
	4年生、5年生を対象	幡多小学校
	4年生、5年生、6年生を対象	岡南小学校、政田小学校、西大寺南小学校
アンケート回答者数	811人	
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ●個人属性 ●バス教室が楽しかったかどうか ●バス教室で心に残ったこと ●バスに親しみを持っているかどうか ●移動時にバスを使いたいと思っているかどうか ●家族のバスの利用状況 ●移動に関する個人の特性 	

◆バスの乗り方教室と利用実態に関する共分散構造モデル



結論

- バスの乗り方教室が好印象であったことや、バスの乗り方をよく知っていること、家族と外出する際にバスをよく利用すること、家族にバスを月に1回以上利用する人がいることとの関連性が大きいことが明らかになった
- バスの乗り方教室が好印象であったこと、バスに親しみを持っていること、家族と外出する際にバスをよく利用することとの関連性が大きいことが明らかになった
- 家族にバスを利用している人がいない小学生にとっては、バスに親しみを持つきっかけやバスを使いたいと思うきっかけとなっていることが示唆された
- 地域性を考慮した家族のバス利用状況とバスへの親しみ、バス利用意向、バス利用実態との関係性を把握することができた